

心を清らかにすること

R 1. 5. 3 1 於、加茂法話会

① うず高い花を集めて多くの華鬘はなかさざりをつくるように、人として生まれまた死ぬべきであるならば、多くの善いことをなせ。(法句經五三)

〈『真理のことは・感興のことは』中村 元訳 岩波文庫 一七頁〉

② すべての悪しきことをなさず、善いことを行ない、自己の心を浄めること、——これが諸の仏の教えである。(法句經一八三)

〈『真理のことは・感興のことは』中村 元訳 岩波文庫 三六頁〉

諸悪莫作 衆善奉行 自浄其意 是諸佛教 (七仏通誡偈)

③ 善からぬこと、己れのためにならぬことは、なし易い。

ためになること、善いことは、実に極めてなし難い。(法句經一六三)

〈『真理のことは・感興のことは』中村 元訳 岩波文庫 三三頁〉

善をなすのを急げ、悪から心を退けよ。善をなすのにのろのろした
ら、心は悪事をたのしむ。(法句經一一六)

〈『真理のことは・感興のことは』中村 元訳 岩波文庫 二六頁〉